



つゞけ丘だより東京

つゞけ丘同窓会東京支部会報



発行 函館西高等学校つゞけ丘同窓会東京支部 会長 折田 信一
 〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215 TEL・FAX 03-5609-9881
 メールアドレス <jimu@td-tokyo.com>
 印刷 三美印刷株式会社 題字 細見 紀子(14回生)



←ホームページURL; <http://www.td-tokyo.com>

コロナ禍を乗り越えて 総会で会いましょう

会長 折田 信一(18回生)



今年1月、中国・武漢から始まった新型コロナウイルスは瞬く間に世界に拡大。私たちの日常生活や行動は大きく変わりました。

『シニアライフ総研[®]』が、55歳以上のシニア670人を対象に、「コロナ禍による行動の変化」について行なった興味深い調査結果があります。新型コロナウイルスによって「意識や行動で変化があったもの」との質問で、何かしら変化があったと答えた人は全体の95%。変化があった行動で最も多かったのが、「マスクの装着」と「手洗い、うがいなどをするようになった」でいずれも8割以上。続いて「外出をほとんどしなくなった」が約5割にのぼっています。

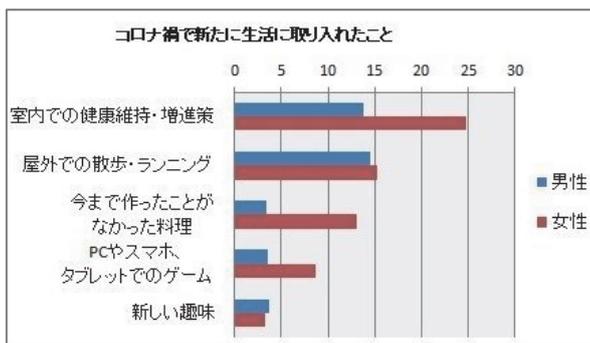
「コロナ禍で時間が増えたもの」との質問では、シニア層の75%が「時間が増えたものがある」と回答。挙げられたのは、「テレビの視聴時間」49%、「パソコンによるインターネットの利用時間」43%など。また、「新たに生活に取り入れたこと」では、シニア女性の4人に1人が「室内での健康維持・増進策(体操や筋トレな

ど)」と回答。これはシニア男性を上回っており、女性の方が健康への意識が高い傾向にあることが分かります。シニア男性の変化で特徴的だったのは、「自宅でお酒を飲むことが増えた」。これは女性の2倍となっており、私自身の経験とも重なります。

東京で2か月余り続いた緊急事態宣言が解除され、少しずつ収束に向うのかと思われましたが、7月に入ると再び100名を超える感染が続くようになりました。感染症との戦いはひと筋縄ではいかないといひしひと感じています。

コロナ感染者の拡大によって、事務局活動においても学年幹事会(2月29日)にお集まりいただくことができず、議案を郵送し、書面にてご承認をいただきました。この書面会議では、「同期会活動が活発になれば、同窓会も活性化される」との意図で、

同期会補助金をこれを倍額の1万円に提案にご承認をいた



つゞけ丘同窓会 東京支部 第19回総会・懇親会

日時 2021年5月8日(土曜日)予定
 午前11時～受付・正午開宴
 場所 東京都文京区『椿山荘』 4F 雅の間
 会費 10,000円

だいております。その後、4月20日～6月21日まで事務局活動を休止せざるを得ず、6月発行予定の会報が延期に。しかし、3か月遅れとなりましたが、このたびようやく会報24号をお届けできることになりました。今年1回の発行となることをご了承ください。

また、次回、第19回総会・懇親会は、来年2021年5月8日(土)椿山荘での6回目の開催を予定しております。予防ワクチンや効果的な治療薬、治療法の開発が進み、ぜひとも同窓生の皆様と笑顔でお会いできることを切に願ってやみません。

◆特別寄稿 函館西高の思い出

伊藤 セツ(7回生)



1954年、私は木古内第一中学校を卒業し、同じ場所3年と住

むことのない転勤族の両親の元を離れて函館西高に越境入学し、元町に下宿した。今から66年も前のことである。あの時、特別のこととも思わずに、大決心したわけでもなく、両親の家を出た。中学校だって入学したのは、道北の羽幌中学だったのだから、その後も両親はあちこちと道内を転動していた。

でも、私の生まれは、れっきとした函館市汐見町。その後、松前、寿都、羽幌、木古内と、15歳まで北海道を転々として、ついに生まれ故郷で高校生になったのだ。新制高校7回生だった。

1955年、函館西高2年生在学中の16歳の時に、函館高女から数えて50周年記念というのがあった。その頃女子高校生は3分の1ぐらいだったが、函館港を見下ろしながら、将来に思いをはせていた。「絶対に〇〇夫人」という存在で生きたくはないね。自分がなにになるかが大事なんだよ。経済的に自立してね。」

などと非常に重大なこと、今も問題になることを平気で、しかも本気で言いあっていた。そして、「西高100周年記念の時私達生きているよね。どうしているかな」と、50年先のことは霧の中を見るようでわからなかった。仲間にはHさん、Yさん、Nさん。「男子が家庭科取らないなら私達絶対家庭科取らない。なんで女子だけなんだよ」(その頃、家庭科は女子のみ選択)。教室の窓から、連絡船が汽笛をならして青森に向かうのを眺めながら、本州(内地)に思いをはせていた。

3年間は充実していたが、またたく間に過ぎた。私はS先生の国語の授業に、ほれ込んだ。何て上手な教え方をする先生だろう。古文のクラス分けて、S先生でないクラスに配属されたとき、知らぬふりをしてHさんと一緒にS先生のクラスに出た。実力行使をしたのだ。出席をとって当然呼ばれなかったが、先生はちらりと私達2人を見て、「呼ばれなかった人は」と聞かれた。二人は手を挙げた。先生はそのクラスに黙認して加えてくださった。嬉しかった。そんなことが許されたとは…。

進学で東京に行ったのは、女友達ではNさんのみ。一番優秀だったHさんは北大にストリートで、ぐずぐずしていたYさんと私は1校しか受けていない北大受験に失敗して、Yさんはお兄さんが住んでいる東京の

予備校へ、私は親戚もいない札幌の予備校へ入った。

当時、国立大は8科目(英語、国語、社会・理科・数学それぞれ2科目)の試験があった。2年目にYさんも一緒に合格したからよかったようなものの、今思い出すとゾツとする。18歳から34歳までを札幌で過ごし、結婚、就職、出産を通過して1973年に上京した。

2005年、函館西高100周年の時、私はまだ、在職中だった。私の職場の定年は、70歳で2009年の予定だったから、その4年前の、私が66歳の時で、娘3人は皆家を出ており、私の仕事は最高の忙しさだった。100周年記念誌『この坂から』に7回生として何か書いてほしいと連絡があったので、同誌469ページに何やら書いています。



私は、これまで家族と一緒に2回函館西高に行った。一度は青函連絡船が消えるという直前の1988年の夏休み。どうしても、かつて私が修学旅行の時に青函連絡船で津軽海峡を渡ったあの経験を3人の娘たち

にさせて、私の青春の地、函館西高を見せておきたかったのだ。そのあと2017年、私たち夫婦が70代のうちに孫たちを函館西高とあの坂に連れて行きたくて、娘たちも一緒に函館に行った。

「この坂から!」この思いは、つじヶ丘の西高で学んだものの原風景である。今でも石岡剛画の「八幡坂」を仕事部屋に貼ってある。港を見下ろし、青函連絡船の汽笛が聞こえてきたあの時代をけっして忘れることはないだろう。

最後の担任は数学の小原孝男先生であった。私達7回生で東京近郊在住者は、数年前から3カ月に一度の7日に、銀座の中華レストランに集まって同期会を開いているが、今年も新型コロナウイルスで中止になっている。私が今住んでいる八王子の家の近くの小さな「焼鳥屋」に常連客がいて、ひょんなことから函館西高の23回生だということを知った。数回顔を合わせた。「あの坂」「なつかしいなんていうだけのもんじゃやない。ああ!」と彼は感極まっていた。八王子には北島三郎さんも住んでいる。あの坂から、いろいろな人生が広がったりつながったりして、今も私は生きています。

●(いとう・せつ)旧姓・松原。北海道大学大学院博士課程修了。北星学園女子短大助教などを経て、昭和女子大名誉教授。専門は、社会政策、女性問題・運動で「家庭経済学」「山川菊栄研究」など著書も多数。

◆同窓生の広場

おじさん ぶらりひとり旅⑤ 冬の祖谷溪

野口 卓史(27回生)



JALマイレージに「どこかにマイル」という、国内線往復航空券が通常1万5000マイルのところ6000マイルで引き換えられるというお得なサービスがあります。ところがどこに行くかはJALまかせ。申し込むと4つの候補地が提示され、そのうちの一つが当たるとは、候補は再選定が可能です。候補が良ければ申し込み、後日結果が通知される仕組みです。

時期的に北方面は雪で欠航の可能性があるが、4つの候補が全部西日本になるまで選び直し、最終的に徳島空港に行くこ

とに。以前、徳島市内と鳴門の渦は行ったことがあるので、ガイドブックを引っ張り出して行先を物色。西に向かうか南へ向かうか。頭もボケつつあるので、大歩危(ボケ)・小歩危の祖谷溪に決めて、早速レンタカーやらホテルの手配を済ませました。金曜日夜便の移動なので、泊りは空港にそこそ近い鳴門の、とりあえず寝るだけのホテルへ。翌朝は空港まで戻り、レンタカーを借りて出発。高速に乗らず、ちんたら下道を吉野川上流へ。途中貞光の道の駅でトイレタイム。そこで地図に剣山經由の抜け道があるのを発見し、観光案内窓口で聞いてみると冬は雪で閉鎖とのこと。それでまっすぐ大歩危・小歩危方面へ。大歩危では吊り橋の名所「かずら橋」へ。足を踏み外しそうでおそろおそろ、つかまり歩きでなければ渡れませんでした。

四国山中でイカ刺に出会う

すでに昼はだいぶ回っていたので奥祖谷の「そば道場」へ祖谷そばを食べに行くことにしました。途中、平家屋敷に寄り、ようやく2時過ぎに「そば道場」に。道路はすれ違いができそうもない狭い道が多く、「かかしの里」など見たいところもありましたが、温泉につかってゆつくりすべくホテルへ直行することに。3時過ぎにはホテルに到着し、早速お湯につかって道の駅で買った蜜柑を食べながらのんびりすることができま



した。夜ご飯はレストランの和食コース。一番搾り、地元のゆずビール、麦焼酎の水割り一杯ずつ飲んで終了。全部を平らげるのはもうきつくなくなっています。何とか完食。郷土料理もいくつか並んでおりました。部屋に戻り、ベッドに寝転がりながらテレビを見ているうちにうつらうつら、結構早く沈没してしまいました。

朝のバイキングでは、いか刺しを小どんぶりに二口分ほど頂きました。函館でもしばらく食べてないイカ刺しを四国の山の中で食べられるとは思ってもみませんでした。遅めにチェックアウトして大歩危の川下り舟に乗ることに。団体客を乗せた2艘が出たところで30分ほど待つ乗船。客のはさまで乗客は二人だけ、ほぼ貸し切り状態でした。

隘路を対向車におびえつつ運転

帰りは行きと違うルートを走りま



したが、道は狭いしカーブが多く、先が見えないとこぼっかりで運転疲れしました。対向車が来ないことを祈りつつ、時々行き会えるものの、相手が先に停まってくれたので助かりました。一度はバスも。あんな道をよく運転するものだと思心します。この辺りは、昔は平家の落人の里だったそうで、家々は崖に貼りついて建てられ、玄関前が道路という家が多く、普段の生活の大変さを感じられました。今回の旅では雪に降られませんでした。冬は雪が積もることもあるそうです。昼食は、昨日は蕎麦だったので今日は徳島ラーメンにしようと、空港

に向かう途中、店を探しながら走行。うどん屋ばかりで、ラーメン屋を見つけた時は2時近く。お腹がすいていたのを別にしても、なかなか美味しいラーメンでした。空港に戻る直前、松茂町の人形浄瑠璃資料館に。入館料が無料なのが嬉しく、見学者は自分ひとり、あずましく観ることができました。早めに空港に到着、徳島県祖谷溪への一人旅を終えました。

ペトラ遺跡……中東への旅

竹澤 秀明(17回生)

今年1月下旬、念願のペトラ遺跡観光へ行ってきた。ヨルダンのペトラ遺跡、三大宗教の聖地エルサレムを訪ね、死海では浮遊体験を楽しむ計画である。初めて利用するモスクワ経由のアエロフロート航空でイスラエル・テルアビブに到着。早速、観光開始である。

イエス・キリストの生誕地で、母親マリアが受胎告知を受けた洞窟。イエスが水をワインに変えた「カナの婚礼」のカナ。そして、伝道活動が始めるまで両親と過ごしたナザレ。さらに、イスラエル最大のガリラヤ



湖では、イエスの弟子聖ペテロが銀貨を啜えた魚を釣ったと言われる幸運の魚「セント・ピーターズ・フィッシュ」を賞味した。

その後3時間かけてヨルダン側の死海へ。途中、中東戦争の激戦地だ

ったゴラン高原を通ったが、近代できれいなイスラエルに比べ、ヨルダンに入ると戦前の日本や中国の貧しい農村を見るようであった。

翌朝は死海での浮遊体験。風が強く寒かったが、湖はぬるま湯のように温かい。海拔マイナス410m、塩分濃度が高いので塩辛いを超えて苦い。ヨルダン川などから水が流入するが流れ出る川はなく、蒸発して塩分が濃くなったという。しかも沿岸の工業・農業用水として取水されているため、水位が毎年30cmほど下がっている。2050年には消滅が危惧されている。私も妻もプカプカ浮いた。

映画「十戒」の舞台へ

ペトラへの途中、マバダのギリシヤ正教、聖ジョージ教会(パレスチナのモザイクが残る)、そして十戒で有名なモーゼ終焉の地ネボ山へ。エジプト王の迫害から逃れ、率いてきた民に、モーゼは「あれが約束の地カナンだ」と告げ、パレスチナへ行くように伝えて、ここで息を引き取ったと言われる。ここからはヨルダン渓谷、死海、エリコ、エルサレムまで見渡せる。絶景の地だった。

ヨルダン唯一の世界遺産ウムニアルラサス(古代モザイク画が残る)では、裸足の子供たちが「マニー、マニー」としつこく寄ってくる。何か悲しい気持ちになったが、添乗員から金銭を与えないように、と厳しく言われていた。



ペトラ 到着後、暗闇の中を懐中電灯の光で20分ほど歩き、夜の「エ

ル・ハズネ」遺跡へ。たくさんのは蝋燭とライトアップ、アラビア語での歌うような物語を楽しむ。まさに初めて経験するアラビアンナイトだった。翌日はあいにくの雨模様。入口のシーク(岩の割れ目)から宝物殿を意味する「エル・ハズネ」を目指す。映画「インディー・ジョーンズ/最後の聖戦」の舞台で、百聞は一見に如かず。ペトラは、古代、シルクロードと並び、中国、インド、エジプト、ギリシヤ、ローマを結ぶ絹や香辛料の貿易の中継地として栄えたナバタイ人の都市である。岩場を利用した水路・噴水・プールまであり、ローマ帝国様式も多く残る。

午後になって雨が強くなり、鉄砲水の恐れがあると警報が出て、急ぎ退避となった。数年前にも「鉄砲水」の被害が出たそうで、近くに駐車していたトラックと交渉し、我々を含め周りの人たちが、荷台に乗れるだけ乗って猛スピードで避難。乗車賃は一人1ドル。後で聞いた話では、やはり鉄砲水で入場中止になったというから危機一髪だった。

かつて、25年前のエジプト旅行の際に武装警官の護衛付きで観光した

ことや、その後のオーストラリア旅行では車上荒らしに出会ったことなどを思い出し、滅多にできない経験をすることも旅の醍醐味のひとつだと思った。

いよいよイスラエルへ

翌日は、朝5時にホテルを出発。前日の雨が夜には雪となって積もり、時速50km制限の山道を20kmでソロソロと走行。この国ではスタッドレスタイヤやチェーンの習慣はないそう、案の定、途中畑に落ちている車がありパトカーが来ていた。眠気も覚める早朝ドライブだった。



いよいよイスラエルへ入国。ヨルダン人ガイドやドライバーが別れ際賃金の上乗せを要求して添乗員ともめていた。日本人添乗員は、契約書を提示して断固拒否。さすがペトラだ。しかし、イスラエル入国時に空港で荷物の受け取りに時間がかかり、催促すると作業員にお金を要求され、この時には添乗員がお金を握らせた。『臨機応変、郷に入っては郷に従え』ということだろう。

イエス・キリスト生誕の地、ベツレヘムへの途中、海拔ゼロポイントで写真撮影。山の上なのに海拔ゼロは、にわかには信じがたい。次いで、世界最古の街と言われるエリコ観光。さらに、ベツレヘムの「聖誕教会」はパレスチナ自治区にあり、教会地下にイエスが生まれたとされる洞窟がある。世界中の信者が来ており、狭い中をこった返しの観光だった。

嘆きの壁で世界平和を祈る

最終日は、三大宗教の聖地エルサレム観光だ。旧市街の神殿の丘、イ



スラム教のムハンマドが昇天したという岩の上に立つ黄金色の丸屋根と八面体の大理石とトルコ石が印象的な「岩のドーム」など。色鮮やかな建物を見ながらガイドの説明を聞いてみると、ガイドマンらしき男が近寄ってきて説明は手短にと注意された。横で説明を聞いていた妻の地図を取り上げ、しばらく睨んでいたが幸い返してくれた。

ガイドの話では、イスラム教以

外の文章やパンフはご法度とのこと。出入口にもマシンガンを持った女兵士がチェックしていたが、「可愛いね写真撮ってもいいですか」というとニコリ笑い、リップクリームを塗ってポーズをとってくれた。

反対側の壁は、ユダヤ教にとつて最も神聖な「嘆きの壁」。男女別々に祈るが、男は入口に置いてあるキツパという小さな帽子をかぶれば中に入れる。早速かぶって壁に触り、世界平和を祈った。妻はスカーフをかぶって祈ったという。ユダヤ教徒は黒服、帽子、長く伸ばしたおさげ髪風の独特ないでたちで、働くことはなく祈りの毎日とか。驚くことに年金があり暮して行けるらしい。

最後の目玉はイエスの道「ビアドロローサ」だ。イエス・キリスト終焉の地ゴルゴダの丘まで1kmの「悲しみの道」を、何度も見た映画「ベンハー」の場面を思い出しながら歩いた。ローマ帝国のエルサレム総督ピラトは、イエスを生かして追放処分を画策したが、住民の強い希望で磔付けによる処刑をせざるを得なくなる。官邸の鞭打ち場所からイエスがたま

ずいた場所、シモンがイエスに代わり十字架を背負った場所など、14か所の観光ポイントを巡ってイエスの墓所「聖墳墓教会」に到着。映画と違い、通りは店が立ち並び賑やかだったが、2000年前と同じ階段を歩いたことは忘れられない。

昼食は、中東戦争の火種パレスチナに近いイスラエルのヨルダン川西

岸地区内のレストランで。約700kmの壁でイスラエルと区分けされ、門からの出入りは兵士による厳しい検問があり、その様子を撮影しようとしたツアー客が厳しく注意されていた。中はいたって平静に感じられたが、アジアが震源地のコロナ感染症のために日本人がパレスチナで暴行を受けた事件もあり、国外は怖い。最後にエルサレム旧市街を一望できるオリーブ山とダビンの「最後の晩餐」で有名な部屋を観光。ガイドの説明によると、当時は絵に描かれたようなテーブルで食事をするのではなく、ダビンの創作だという。

現地ガイドはクリスチャンの日本人で、宗教的案内が豊富でいろいろ貴重な話が聞けた。カトリック教は「父と子と聖霊の御名によってアーメン」と言い、プロテスタントは「イエス・キリストの御名によってアーメン」と十字を切る。違いは旧約聖書と新約聖書に由来するという。貴重な中東の旅だった。(誌面の都合で、一部割愛しています。ホームページで全文をご覧ください)



◆告知版

作家・森真沙子(11回生)さん
新刊のご案内
影灯籠／柳橋ものがたり⑤



好評の新シリーズ「柳橋ものがたり」の第5巻《影灯籠》が7月末に発売。3万人が死んだという安政コレラから9年後、悪夢再現の兆しに立ち向かう蘭方医、手塚良仙(漫画家手塚治虫の曾祖父)の奮闘を描く『うつろ舟』など5話を収録する。

◎購入は、二見書房オンライン書店
または楽天ブックスの電話注文で。
☎0120・29・9625

**没後30年
作家・佐藤泰志(18回生)**

作家・佐藤泰志(18回生)が亡くなって30年になる。映画化された「海炭市叙景」をはじめ、その作品は今も読者を魅了し続けている。追悼の今年、原作映画2本が公開の予定だったが、コロナ禍で制作が中断。残念ながら制作再開や公開の見通しは立っていないが、新情報はホームページなどで発信する予定だ。

箱館ちよびつと昔語り⑨
「えぞ箱館港」繁盛風景

廣瀬 菊枝(16回生 函館在住)

「春になって海が凪ぎると35反の帆を巻き揚げた千石船が、浪華や兵庫、尾道、近くは秋田、庄内、若狭、丹後方面から米や雑貨を満載して続々港へ入ってくる。

一艘の船を預かる船頭には船持船頭もあるが、大概は船主代理、荷主代理で積荷の処分は勿論のこと、蝦夷地の産物買付(交易)一切を任されているのであるから、船頭とはいえ決して今の人が考える船長さんではないのである。それは非常な見識を持っていて航海のことは勿論、商売上のことについても相当な腕がなければ勤まらない。高田屋嘉兵衛もこの船頭の一人であった。

交易が終り帰り荷の積み込みが終わると、日和を待ってよいよ出帆が決まると船頭を初めとし水主の末々の者迄皆素っ裸になって弁天様か高龍寺の金比羅様へ海路安全の裸参りをするのである。先頭の船頭は紅絹の裸一貫、他の者は皆裸紅木綿の褌一つで往復とも駆け足であるから、中々壯観であった。

このような船が春から秋の終わりまで入れ替わり立ち替わり港を賑わしていたのであったから、山之上の郭や料亭が繁盛したのも無理からぬ事であつたらう。

灘七郷の芳醇な酒にも事欠かず、肴よく、女亦良しという蝦夷地明暗花柳の港は、榴花卉の左様、江戸絵の如し。『神山茂著作集』より抜粋

市中の人々の職業(1858年頃)は、問屋、小宿、附船、五十集(魚屋)郷宿、六カ場所宿(小安・戸井・尻岸内・尾札部・茅部、野田生漁村の村民を泊めた)、旅人宿、大工、木挽き、船大工、鍛冶、桶屋、古道具屋、紺屋(染物)、豆腐屋、菓子屋、風呂屋、三半図合船など。

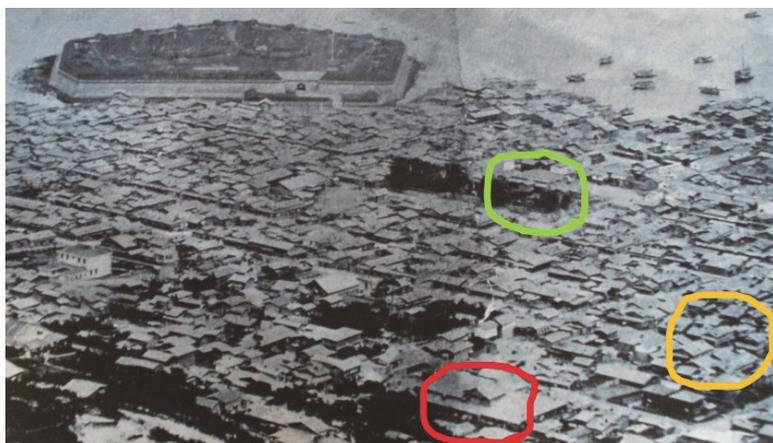
ペリーさん一行(1854年)が購入したお土産(松前藩勘定奉行 石塚官蔵の記録より)

- 呉服物類(男女帯類・金襴・縮緬・半襟・袖口・木綿風呂敷・衣類・もも引き・足袋)塗り物類(膳碗796人分・箸箱・弁当箱・重箱・櫛箱・硯箱・木枕・木魚)瀬戸物類(土瓶296個・茶碗445個・徳利・盃719個・井274個・花立・皿492枚・焜炉72個)荒物・小間物・紙類・煙管キセル1643本・墨3646本・印籠72個・石碑2基・石地藏5体・薩摩芋・金山寺味噌他
- (買上総額1445両2朱2歩)

電話もFAXもインターネットもない時代、事前にこれだけの品揃えは不可能です。多分常日頃、市中に出回っていた商品に達しないのです。問屋・倉庫に常時備蓄ができていて、住民の生活に必要な商品の需

要が常にあつたので、ペリー一行は滞在期間24日間にこれだけの品々を買い揃えられたのでしよう。

左の写真は明治2(1869)年頃の弁天台場と街並み。蝦夷地箱館港の新興都市ぶりが一目瞭然。手前は天神町。芝居小屋があり、1831年には江戸歌舞伎俳優一座が興業(ちなみに、四国金比羅琴平歌舞伎芝居小屋は1835年建築、箱館は四



明治2年頃の箱館。左上が弁天台。高龍寺(緑円)、芝居小屋(赤円)、遊郭(黄円)

国の4年前には興業ができていた)。その下に山ノ上町、茶屋町と遊郭がひしめいて、

「山下には新吉原風の揚屋あり。入り口に大門有り暮れ六ツ時より女郎屋を張り、格子内にはぼんぼりを照らし緋毛氈の上に坐し蒔絵の煙草盆を控え打掛けを着なし江戸絵の如し……」(『万延元(1860)年』「蝦夷地道中日記」より)

安政以来箱館は、北辺唯一の開港場として内外何れも蝦夷地の産物を集積する港であつただけでなく、政治経済の一大中心地でありました。

蝦夷地の産物を交易に来る各地の船も年々何千と数えきれぬほどであり、1837年の箱館は、入港船1087隻、出船1215隻。さらに、弁天台場1856年、五稜郭1857年着工と相次ぐ公共事業を実施。

「蝦夷の箱館」といって、星の形をした城の工事が始まっていてどえらい景気らしい。人夫日当250文、飯タダ。多いときは土方人足日に6000人」と、後の浪曲節語りにあつたそう。

当時、北の蝦夷地は海も豊漁の上、交易も右肩上がり、政治経済防衛と最果て港は大賑わい。町風景ながら、男も女も老いも若きも懸命に生きた町であつたのです。

●参考文献：函館市史
神山茂著作集
函館の1000年(須藤隆仙)

◆ 回生だより

13 回生同期会開催

38 会(13 回生)の同期会は、久しぶりの開催です。年末(12月14日)なので忘年会となりました。2019年に我々の半分以上の仲間は後期高齢者になりましたが、今回集まったメンバーは元気いっぱい!

ワイワイガヤガヤと会話が始まり、二時間半があつという間。2020年は函館で同期会開催の予定なので(コロナ禍で中止に)、それまで元気でいようと意気投合。その後は恒例の二次会カラオケで盛り上がりました。(斎藤勝美)



32 回生同期会開催

2019年12月14日土曜日。18時より、居酒屋にて、32 回生の忘年



会を開きました。嬉しいことに、2組の担任だった吉田先生を囲んでの会となりました。今回のメンバーは、お仕事が終わってから参加される方がほとんどでした。忘年会シーズンで、お店はサラリーマンの方でにぎわっていたようです。

吉田先生からは、これからの人生の過ごし方など、とても役立つアドバイスをいただいたのがありがたかったと思います。来春は、男性陣が中心となり、同期会を企画してくださるそうなので、今から楽しみにしています。

駅の改札口では、吉田先生がひとりひとりと握手をしてから別れたの

が印象的でした。参加者の皆さまありがとうございました。(本間雅子)

卓球部OB懇親会を函館で開催

2019年11月16日の土曜日午後6時より、函館の「五稜郭ガーデン」にて、第6回卓球部OB懇親会が11回生33 回生まで21名が出席して開催されました。

6年前の前回より参加者が増え、20名を超えました。準備に奔走してくれた幹事の29 回生中江(旧姓小笠原)弘美さんのおかげです。函館は雪が降ったあとでしたが、幸いすぐに融けたもののちらほらと雪が舞い、埼玉に慣れた私にとっては、とっても寒く感じられる日でした。

函館での開催にもかかわらず、埼玉から工藤(篠田純一)さん、金沢から澤口耕さんも駆けつけ、また初出席の方も何名かいらつしやいました。

16 回生の幹事長、二川佑一さんの挨拶、出席者最年長の11 回生星野浩治さんの乾杯でスタート。6年ぶりのこともあり、近況やこれからについての話が皆の口の上っていました。体調や病気の話もかなり出ていたように思います。もちろんメインは卓球部時代の話ですが、その頃のやんちゃ話も飛び交っておりまして。ま、時効ですし、それも懐かしい思い出です。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に長年幹事長を務めた二川さんと20 回生守屋(安保)静子さんの幹事引

退の爆弾発言が飛び出しました。そして、私(野口)への幹事指名と、中江さんからは28 回生小林正和さんへの幹事指名があり、二人の新幹事が誕生。中江さんにはこれからも協力頂けるとのこと、いささかほつとしていたところ。その後、16 回生和田稔さんの締め乾杯で開きに。三々五々、五稜郭のネオン(古いですね)の中に消えていきました。きつと楽しい二次会が待っていたことでしょう。

また次回もみなさまが元気で出席されますように。今回出席が叶わなかった方は、次回はぜひご出席ください。(27 回生野口卓史)



◆同窓会交流報告

関西支部総会に出席



関西支部の総会は、例年、京都・大阪・神戸の三都市で交互に開催されてきました。2019年は11月24日に新大阪のワシントンホテルプラザで開催。総勢18名のこぢんまりとした会合でした。

中村浩会長のご挨拶の後、総会の重要案件は会長交代でした。新会長は20回生の中谷基さんで、交代の経緯を詳細に説明され、全会一致で承認されました。小人数でしたので、参加者一人一人から、近況報告が行われアットホームな雰囲気になりました。

関西支部は東の三重県から西は兵庫県と東西

【2019年度 つゞじヶ丘同窓会東京支部 会計報告】

自 2019年 1月 1日
至 2019年 12月 31日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------------|-----------|-------------|-----------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 前期繰入金 | 2,854,283 | | |
| 年会費(振込) 443件 | 886,000 | 同期会補助費 | 20,000 |
| 年会費(現金) 61件 | 122,000 | 交流費 | 70,000 |
| 本部補助金 | 30,000 | 旅費交通費 | 40,000 |
| 預金利子 | 19 | 会議費 | 28,080 |
| 18回 総会関連 収入 | 2,170,000 | 通信費 | 143,623 |
| | | 事務費 | 14,715 |
| | | 会報関連費 | 341,570 |
| | | 印刷費 | 39,852 |
| | | 事務局費 | 120,000 |
| | | HP関連費 | 150,000 |
| | | 年会費振込手数料 | 57,135 |
| | | 18回 総会関連 支出 | 2,273,636 |
| 収入計 | 3,208,019 | 支出計 | 3,298,811 |
| | | 次期繰越金 | 2,763,491 |
| 合計 | 6,062,302 | 合計 | 6,062,302 |

【繰越金内訳】

前日本郵政 2,729,843
現金 33,648
合計 2,763,491

以上会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。

2020年 1月19日

会計監査 13回生 森 加代子
代理 14回生 堀内 洋子

に長いエリアで、今回久しぶりに若い32回生の女性に参加。「今後の希望が少し湧いてきた」と富士元会長が発言され、今後も小規模ながら会合を続け、関西支部を継続していきたいとのことでした。

副会長 佐藤雅英(18回生)

◆事務局活動報告

事務局長 安原秀樹(18回生)

◎本部・他支部及び他高校在京同窓会との交流

2月15日(土)東京臥牛会連絡会、会長・副会長出席
10月10日の本部同窓会はコロナ禍で中止が決定
今年の他校同窓会(中部、ラサール、東、函商、函工)はコロナ禍で中止に

◎会議等

・学年幹事会／2月29日(土)コロナ

禍により、事業報告、事業計画等を書面会議に振り替えて実施

・事務局会議(編集会議含む)

2月1日/学年幹事会打合せ

3月14日/会報24号編集会議中止

5月16日/会報24号編集会議中止

6月6日/会報24号及び年会費納入依頼書の発送業務中止

6月22日/事務局活動再開

8月28日/事務局会議、会報24号発送作業予定

●同期会開催に補助金を進呈
東京支部では、同期会の活性化を目的に同期会(7名以上)を開催した場合、年1回補助金を差し上げています。ただし、開催報告をホームページにご投稿いただくのが条件です。今年度からは、補助金5千円を1万円に増額しました。申し込みは、東京支部ホームページから申請書をダウンロードしてお手続ください。

●哀悼 物故者のお知らせ

2019年4月〜2020年7月
末までに事務局へご連絡をいただいた逝去された会員です。ご冥福をお祈りいたします。

安田千恵子(2)、佐藤方春(5)、工藤平治(5)、長沼伊季子(5)、池野弘(7)、石塚茂(11)、安澤康子(12)、伊藤昭夫(13)、沢井真気生(14)、下崎則康(18)、青山敬三(18)

会員の皆さまにお願い

同窓会活動、充実のために

年会費2000円納入にご協力を

同窓会は年会費と総会・懇親会会費で運営されています。今後とも同窓会活動を維持・活性化していくために、会員の皆様のご支援をお願いいたします。

年会費振込手数料ご負担のお願い

振込手数料はこれまで事務局が負担してきました。しかし、会員数の減少と振込手数料の値上げ(昨年4月より70円アップ)を踏まえ、学年幹事会で審議の結果、年会費は今まで通り2000円とし、振込手数料を負担してもらうことになりました。現在、郵便振込手数料は、ATM152円、窓口203円です。やむを得ない事情を鑑みて皆様のご理解とご協力をお願いします。

《編集後記》

コロナ禍で、スマートフォンやパソコンを利用する社会のデジタル化が加速しそうです。テレワーク、オンライン教育や会議、ネットショップ、キャッシュレス…。東京支部ホームページもスマホでQRコード(1ページ左上)を読み取るだけで即座にアクセスできるようになりました。ご利用ください。(井田幸子20回生)

皆さまの投稿(思い出、出来事、旅行など)をおまちしています